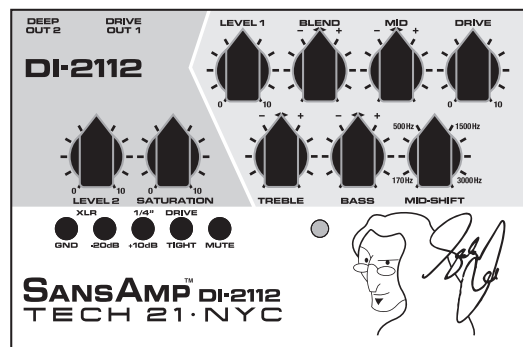




Geddy Lee Signature SansAmp DI-2112



USER GUIDE

1 はじめに

1996 年 Test for Echo Tour のステージでゲディー・リーはアンプとスピーカーを使用せず主に家庭用の電気製品を並べてライブパフォーマンスを行いました。そんな中ゲディー・リーは機材の簡易化を目的としてシグネチャーモデルを開発する為に TECH21 とパートナー契約を行いました。この挑戦的なコラボ企画によりラックロード機材を一つのラックスペースに集約、ディープでクリーンなトーンを演出する Sans Amp の RPM から得られる「エッジクラunch」を連想。「この GED-2112 は本当に私が長年創り出してきたベーストーンだと感じる」とゲディー本人が語っています。GED-2112 ラックマウントは 2 つの独立した内部ブリアンプによって画期的な内部構造になっております。このコンセプトに従って設計したアーキテクチャ構造を取り入れました。そしてこの SansAmp DI-2112 はラックマウントのデザインとペダルのポータビリティを融合させ、スタジオのデスクトップでもアンプトップでも使用できるように設計された新しい機材です。それぞれのシグネチャー SansAmp は Geddy のコアなサウンドや様々なスタイルに対応できる汎用性を備えています。ドライブのブリアンプセクションは汎用性のある SansAmp RPM に基づいて設計、力強い低音から芯のある高音域まで幅広いサウンド演出の可能性を見い出します。ディープ・ブリアンプ・セクションはパワフルで厚みのあるトーンを提供。単体で使用することはもちろん外部からミキサーと 2 つのアンプに直接ブレンドすることも可能です。DI-2112 のデュアル・アナログ回路はゲインとオーバードライブを Sans Amp のチューブアンプにエミュレーションしながらドライサウンドのブレンドが可能。他にもセミパラメトリック EQ、またスイッチによりタイトなサウンドに切り替えることも可能です。電源に関してはよりクリア且つハイクオリティ音質を再現する為に 18V のパワーサプライ (付属なし) または 9V アルカリ乾電池 2 本 (付属なし) で駆動します。デュアル 1/4"、XLR アウトプット仕様、頑丈なオールメタルハウジング仕様です。

2 接続方法

ブリアンプとして接続：

本製品の出力をベースアンプの「エフェクトリターン」に接続します。これによりベースアンプのブリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

パワーアンプとの接続：

1/4 インチ出力または XLR 出力をパワーアンプの対応する入力に接続し、SansAmp DI-2112 の Level コントロールでボリュームを調節します。

NOTE：

アンプやパワーアンプ単体のパワーアンプ入力に接続する場合は、必ず出力レベルスイッチを以下のように設定してください。

1/4 インチを使用する場合：+10dB スイッチを ON (■)

XLR を使用する場合：-20dB スイッチを OFF (□)

その後、必要に応じてレベルを調節します。

ダイレクトにレコーディングする：

ミキサー / レコーダーの入力に直接接続して、SansAmp のオンボードサウンドを使用することができます。ミキサー / レコーダーのようなフルレンジシステムでは幅広い周波数を録音 / 再生が可能です。SansAmp の EQ 設定を調節してベストなサウンドを見つけてください。

その他にも…：

DI-2112 はベース専用モデルではありません。チェロやキーボード、フィドル、ドラム、サックス、ハーモニカ、ボーカルなどでも驚きの効果を発揮します。また、ミックスダウン時にリアンプとして使用して録音済みトラックを強化するなどの用途にもおすすめです。

3 入力信号について

SansAmp DI-2112 は、ギターの出力、ディストーションペダルの出力などのように、入力への信号レベルは標準的なベースギター (約 -10dB / 250mV) に近いものを想定して設計されています。大きな信号が入力されるとクリーン設定でも、望ましくない歪みの原因となります。※大きな信号を送った場合でも、本機自体に害はありません。

4 入力端子

電源と接続の順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップノイズ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を完全に下げてください。

4 入力端子

INPUT :

1/4" フォン 1MΩ、インストゥルメントレベル。プラグが入力されると自動で電源を ON にします。バッテリーの消耗を防ぐため、本機未使用時はプラグを抜いて下さい。

本機のプラグを抜く場合は、必ずアンプの電源を切った後に抜いてください。

TUNER 1/4" OUT :

Level コントロールや Mute スイッチの影響を受けず、常に一定の信号を出力します。この出力は、他の機材に信号を送るためのバッファー出力としても使用することができます。

LED :

本機がアクティブになると点灯します。プレイ中は出力レベルに合わせて明るさが変わります。ミュート時は消灯します。

5 出力端子とスイッチ

SansAmp DI-2112 の出力部は、あらゆる機材に対応できるように設計されています。フルレンジ (P.A. システム、マルチトラックレコーダー、パワースタジオモニターなど) とリミットレンジ (ベースアンプなど) を同時に使用することができます。レコーディング時は、プロ品質のシグナルプロセッサとの接続に最適な、非常に高品質のローインピーダンス出力を提供します。ボードに直接接続することで、アナログでもデジタルでも、スピーカーから聞こえてくる音と同じ音を録音メディアに直接出力することができます。また、スピーカーのエミュレーションにより、マルチマイキングされた真空管アンプのあらゆる側面をカバーしています。ライブでは、これらの出力を直接 P.A. システムに使用することができ、アンプの前にマイクを置く必要はありません。

DRIVE OUT と DEEP OUT :

アンバランスローインピーダンス出力。それぞれの出力は、本機の対応するセクションからの信号を出力します。

1/4" Level Selector Switch :

0dB (■) : ユニティゲイン出力。通常こちらの設定で使用します。

+10dB (▲) : 信号を 10dB ブーストします。

DRIVE XLR OUT と DEEP XLR OUT :

バランスドローインピーダンス出力。、SansAmp DI-2112 の対応するセクションからの信号を出力します。

5 出力端子とスイッチ

XLR Level Selector Switch :

-20dB パッドで入力レベルの要件が異なる機器に対応させるための機能です。

0dB (■) : ラインレベル出力。通常こちらの設定で使用します。

-20dB (▲) : ラインレベル信号を 20dB パッドダウンします

Ground Lift Switch: :

グラウンド回路の接続を操作します。

OFF (■) : グラウンド接続を解除します。通常こちらの設定で使用します。

ON (▲) : グラウンド接続します。

NOTE : 1/4 "、"XLR " のどちらの出力も、ドライブセクションまたはディープセクションのどちらか一方のみの出力を個別に使用することができます。

MUTE SWITCH :

チューナーアウトを除くすべての出力をミュートします。

6 コントロール

DRIVE SECTION

SansAmp DI-2112 のドライブ・セクションは、カットしていくだけのパッシブ・コントロールではなく、カットとブーストを行うアクティブ・コントロールを採用しています。コントロールの多くの機能が効果的に倍増し、調整範囲が大幅に広がり、結果的にバラエティに富んだものになりました。最大の結果を得るためには、必ずしもすべてを最大に設定する必要はありません。

DRIVE :

真空管アンプのように、全体的なゲインとオーバードライブの量を調節します。クリーンサウンドの入力感度にも影響します。最もファットで、最もパワフルなクリーンサウンドのためには、歪み始めるまで Drive を上げ、それが消えるまで徐々に下げていきます。

BASS and TREBLE :

BASS : 80Hz/TREBLE:3.2kHz のアクティブトーンコントロールです。12 時のユニティ・ゲインから ±12dB のカットまたはブーストを行います。

6 コントロール

MID-SHIFT :

パラメトリック EQ コントロールで、170 Hz から 3.0 kHz の範囲で MID の中心周波数をコントロールします。

MID :

MID-SHIFT で選択した周波数から $\pm 12\text{dB}$ のカットまたはブーストを行います。

BLEND :

ドライ信号と SansAmp 回路のブレンド比率を調節します。通常、この比率は最大（100% SansAmp）に設定します。用途によっては、ダイレクト信号の比率を調節して希望のサウンドを得ることもできます。Blend が最小に設定されている場合、SansAmp チューブアンプエミュレーション回路はバイパスされますが、Bass、Mid Shift、Mid、Treble、Level の各コントロールはアクティブなままです。

LEVEL 1 :

DRIVE セクションの出力レベルを調節します。

TIGHT ボタン :

ON にすることで、クリーンでは輪郭をはっきりさせ、歪みではトーンをより鮮明にします。

DEEP SECTION

Deep Section は独立したパラレルプリアンプで、個別の Level と Saturation コントロールを備えています。EQ カーブは Geddy の仕様に合わせてプリセットされています。

SATURATION :

真空管アンプのように、全体的なゲインとオーバードライブの量を調整します。

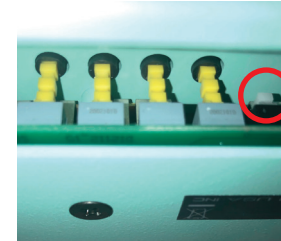
LEVEL 2 :

DEEP セクションの出力レベルを調節します。

7 使用上のヒント

- ◆ ABY ボックスのように出力をパッシブに結合することは、シグナルを劣化させてしまうためお勧めできません。2 つのチャンネルをミックスし、それぞれの出力端子からミックスのみを出力するためスイッチが内部に用意されています。

電池カバーを二つとも取り外し、本体左側のボタン列の最も右にあるスイッチ（下図参照）



を押し込むとミックスモードに切り替わります。

- 通常出力モード
- ミックス出力モード

- ◆ DI-2112 は、ヘッドルームと明瞭度を高めるために 18V で最適に動作します。非常時には 9V 電源でも安全に使用することができますが、ヘッドルームが少なくなります。また、電池動作も可能ですが、9V アルカリ乾電池を 2本使用する必要があります。
- ◆ SansAmp DI-2112 はファンタム電源では動作しません。ミキシングボードで供給されるファンタム電源は、マイクの電源として設計されており、SansAmp DI-2112 は回路構成上、多くの電流を必要とするため、ファンタム電源では正常に動作しません。
- ◆ 本機のコントロールは異常に緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の結果を得るためには、すべてを最大に設定する必要はありません。

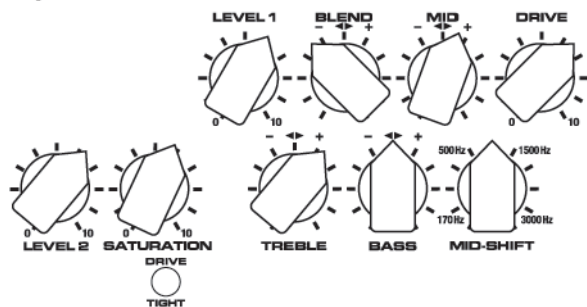
最適な設定を見つけるには、12 時のトーンコントロールから始めて、必要に応じてカットまたはブーストします。設定はアンプや環境によって大きく異なるため、その都度ベストなサウンドを探してください。
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。
その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、
本機の前：コンプレッサー、エンベロープフィルター、ワウ等
本機の後：コーラス、ディストーション（その他）、エコー、リバーブ、ボリュームペダル等
をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。

- ◆ バッテリーの電圧が低下し始めると、LED は著しく暗くなります。

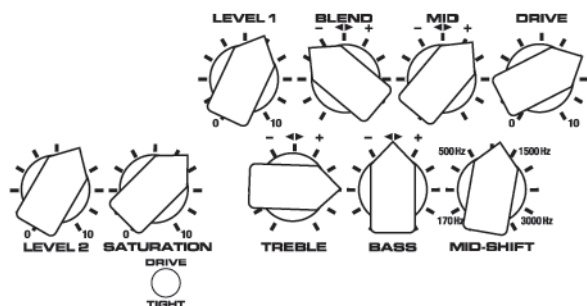
SansAmp DI-2112 Sample Settings

ON (IN) ☒ OFF (OUT) ☐

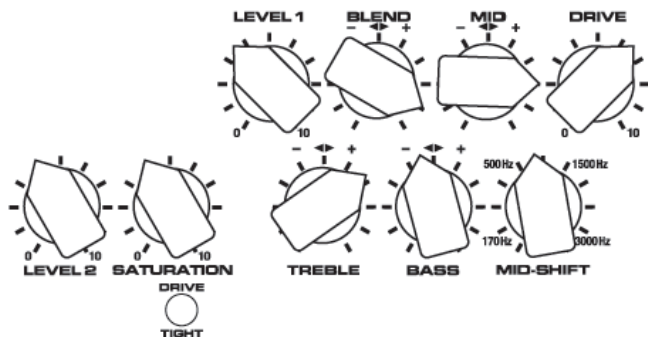
Geddy Lee, Standard



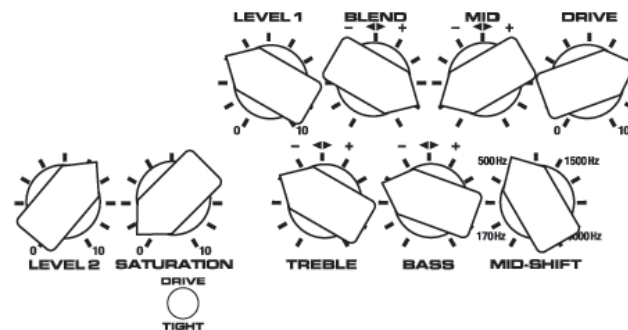
Geddy Lee, "Roundabout"-style



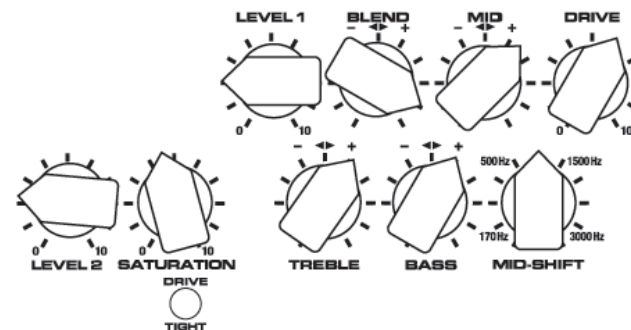
YYZ Jazz Bass-style



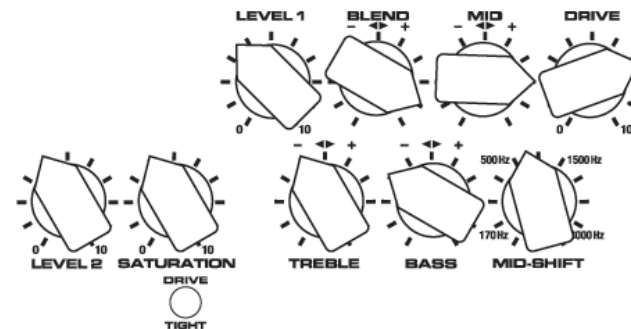
Jack Bruce / Cream-style



Les Claypool-style



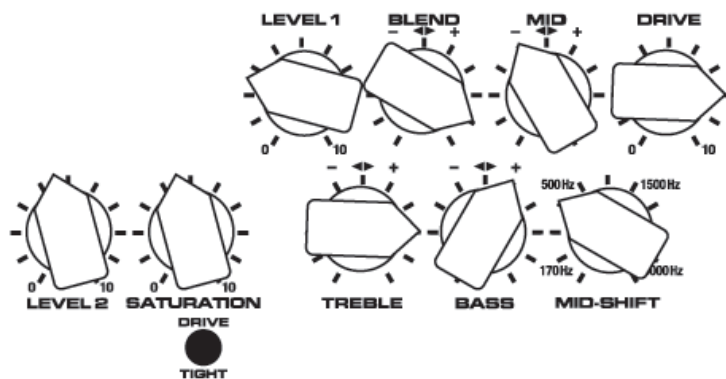
John Paul Jones / "Heartbreaker"-style



SansAmp DI-2112 Sample Settings

ON (IN) ☒ OFF (OUT) ☐

John Entwistle / “Leeds”-style



Radiohead / “National Anthem”-style

